

足立区教育委員会 様

学校名 足立区立千寿常東小学校

校長氏名 山 田 誠 

## 平成24年度教育課程について（届）

このことについて、足立区立学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおりお届けします。

### 記

#### 1 教育目標

##### (1) 学校の教育目標

人間尊重の精神を基調とし、自他の生命を尊び、知性・感性・道徳心・体力に富む、心身ともに健康な児童を地域・保護者と協働で育てる。そのために自ら学び、考え、行動する力や個性を伸ばし、思いやりと規範意識を培い、共生社会を生きる上での基礎を育てる学校教育を推進する。

○ 進んで学ぶ子      ○ 心やさしい子      ○ たくましい子

##### (2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ① 生涯にわたり学習の基盤となる基礎的な知識及び技能の確実な定着を図る。
- ② 基礎的な知識及び技能を活用し、課題を解決するための思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的に学ぶ児童の育成を図る。
- ③ 教育活動全体をとおして、健康で安全な生活及び規律正しい集団生活をしようとする態度の育成を図る。
- ④ 道徳の全体計画に基づき、自他の生命を大切にし、自尊感情をもち自己肯定感を高め、人としてよりよく生きようとする態度を育てる。
- ⑤ 読書活動を推進し、言語力の向上を図り、感性をみがいたり考え方を深めたりする。
- ⑥ 少人数や習熟度に応じた指導を推進するとともに、授業支援員等を積極的に活用し、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。
- ⑦ 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を育成するとともに、言語や文化についての体験的な理解を図る。
- ⑧ 総合的な学習の時間及び各教科において千住地域のよさを生かしながら体験学習、問題解決学習を積極的に取り入れ、自ら課題を見付け、学び、判断する力を養う。
- ⑨ 特別活動を中心として、望ましい集団活動を体験させ、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
- ⑩ 体育や体育的行事をとおして、児童が自ら運動に親しむとともに、体力の向上を図る。
- ⑪ 特別支援コーディネーターを中心として、一人一人に応じた個別指導計画やチェックシートを作成し、それに基づいた指導及び支援の充実を図る。
- ⑫ 幼稚園や保育園・中学校との交流及び連携活動等をとおして、それぞれの教育の理解を深め、幼保小中相互の円滑な連携・接続を図る。
- ⑬ 開かれた学校づくり協議会やPTAと連携して児童の学力向上や健全育成に向けて情報交換を密にし、定期的な授業診断や関係者評価を行い、教育活動及び授業改善に生かす。
- ⑭ 特別支援学級との交流及び共同学習の場を可能な限り設け、互いの理解を深め、共に助け合い支え合って生きていくことの大切さを学ばせる。

## 2 指導の重点

### (1) 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

#### ア 各教科

- ・ 年間指導計画に基づき、少人数や習熟度に応じた指導、副担任講師・授業支援員等を活用し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ・ 体験学習や問題解決学習をとおして、自ら課題を見付け、学び、判断する力を養う。
- ・ ICT 機器を積極的に活用し、楽しく分かる授業を推進する。
- ・ 各教科における多様な言語活動をとおして、言語に関する能力の育成を図る。
- ・ 学校図書館活用年間計画に基づき、読書活動や調べ学習の充実を図る。
- ・ 教師相互の定期的な授業参観や各種の校内研修をとおして教師の授業力の向上を図る。
- ・ 自己評価や授業アンケートをとおして授業改善を行うとともに、適切な評価規準を設定し、指導と評価の一体化に努める。
- ・ 家庭と連携し、家庭学習を定着させ自主的な学習態度や学習習慣の確立を図る。

#### ○国語

多様な言語活動を積極的に取り入れ、表現する能力や言葉で伝え合う能力を育てる。また、音読や漢字の読み書きの指導を繰り返し行い、定着を図る。読書チャレンジカードを活用し、進んで読書に取り組む習慣の確立を図る。

#### ○社会

視聴覚教材・電子黒板などの活用や体験学習、問題解決学習を一層充実し、学習や生活の基盤となる知識や技能の習得を図る。各種の資料から必要な情報を集め、比較・関連・総合しながらレポートを作成したり、話し合ったりする言語活動を充実させ、社会的な事象に対する考えを深める。

#### ○算数

少人数や習熟度に応じた指導を系統的に行い、数量や図形について基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。算数的活動をとおして、算数を学ぶ楽しさを味わわせるとともに考えを言葉や図・式などで表したり説明したりする等の言語活動をとおして表現力の育成を図る。

#### ○理科

観察・実験・栽培・飼育などの体験活動をとおして、自然の事物や現象について考え、問題解決の能力や科学的な見方・考え方を養う。また、観察・実験などの結果を整理し、考察したり表現したりする言語活動を重視し自然事象に対する考えを深める。

#### ○生活

栽培活動、飼育活動、地域における体験活動などをとおして、自分の思いや願いをもって身の回りの事象に関心をもち、進んでかかわり、自分自身や自分の生活について考えさせる。その過程で生活に必要な習慣や技能を身に付ける。また、体験したことから生まれる気づきの質を高めるために、言葉や絵で表すなどの言語活動や表現活動の充実を図る。

#### ○音楽

楽しく、豊かな音楽活動をとおして音楽を愛好する心情や豊かな情操を養い、基礎的な表現の能力を身に付ける。

#### ○図画工作

身近な材料に親しみ、自分の思いを絵や工作で表す活動をとおして、表現する喜びを味わえるようにし、豊かな情操を養うとともに造形的な創造活動の基礎的な能力を育てる。

#### ○家庭

実践的・体験的な学習をとおして、家庭生活に興味・関心をもち、主体的にかかわろうとする態度を育てる。ワークシート、指導資料などを工夫し、家庭生活に必要な基礎的知識や技能を身に付ける。

#### ○体育

体力調査の結果を踏まえ、運動の楽しさを味わう単元の工夫をし、運動の特性に応じた技能と体力の向上を図り、生涯をとおして運動に親しむ資質や能力の基礎を培う。

イ 道徳

- ① 道徳教育推進教師を中心に道徳の全体計画及び年間指導計画に基づく「道徳の時間」の充実・改善を図るとともに、道徳性の育成に資する体験活動や実践活動をとおして、人権尊重の精神と態度を養い、道徳的心情や判断力・実践力を育てる。
- ② 道徳授業地区公開講座の実施に際しては地域・保護者との意見交換会の充実を図り、道徳教育を家庭・地域に広げ、道徳的価値の重要性が浸透するようにする。

ウ 外国語活動

第5学年：友達とのかかわりを大切にしたい体験的なコミュニケーション活動をとおして言葉の面白さや豊かさに気付くようにする。

第6学年：体験的なコミュニケーション活動をとおして外国の生活・文化について知り、多様なものの見方や考え方に気付くようにする。

外国語の音声やリズムに慣れ親しむ活動を工夫し、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図る楽しさを体験できるようにする。

エ 総合的な学習の時間

- ① 全体計画及び年間指導計画に基づく横断的・総合的な活動をとおして、課題をもち、情報を集め、整理・分析し、まとめ、伝え合うなど、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。
- ② 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自分自身の生き方を考えることができるようにする。

オ 特別活動

- ① 学級活動をとおして、望ましい人間関係を築くとともに自主的・実践的な態度を育てる。
- ② 学校行事や児童集会などをとおして、個性の伸長や責任感、所属感、連帯感をはぐくむ。
- ③ 縦割り班活動による異学年交流の充実を図り、互いに認め合い助け合う態度を育てる。

(2) 特色ある教育活動

ア 学校としての特色ある取組

- ① ブックタイム（昼休み後の15分間全校一斉に実施）をとおして言語についての知識や経験を深め、各教科の学習の基礎となる読解力を育成し、読書が好きな児童を育てる。
- ② 学校図書館ボランティアや常東図書館と連携し、学校図書館の整備や読み聞かせを毎週1回実施するとともに、毎月図書の団体貸し出しを利用し、読書活動を推進する。
- ③ 視写タイムを週一回設定し、一定時間集中して、正しく・速く書くことができるようにする。
- ④ 「足立こども元気基金」等を活用し、全学年・特別支援学級において体験学習及び人とのかかわる機会を増やし、児童に豊かな心や活動に対する意欲や表現力を育成する。
- ⑤ スクールカウンセラーと連携した個別支援を必要とする児童への対応及び校内のなかよし学級（特別支援学級）との交流を図る。また、都立城北特別支援学校との副籍交流（授業・学校行事）などをとおして特別支援教育を推進する。
- ⑥ 全学級において、栄養士による食育指導を行い、食に対する正しく豊かな認識を育む。低学年においては、食材の下準備（皮むき、筋取り等）を実際に体験させる等、食育への興味・関心を高める。
- ⑦ スポーツクラブ（ミニバスケット、サッカー、フットサル、水泳、陸上競技、すもう等）やドレミファクラブ（金管バンド）、科学体験教室（年4回実施）をとおして、児童の個性や能力の伸長を図る。
- ⑧ 地域の商店街と連携し、教育活動の一環として「学園通りフェア」や「街頭フラッグづくり」など、地域行事に積極的に参加する体験をとおして、千住地域を大事に思う心情を育てる。
- ⑨ 文化的な学校行事を展覧会、音楽会、学芸会の3年間サイクルで実施する。その過程で、全ての児童に挑戦の機会を与え、成就感と自己肯定感を育てる。
- ⑩ 町探検、荒川河川敷での持久走大会、伝統産業体験、歴史調べ等、地域の中で進める教育活動を充実する。その活動をとおして、児童が故郷千住のよさに気付くとともに地域を愛する心情を育てる。

## イ 区の施策にかかわる取組

- ① 区の小・中連携教育実施校として、千寿桜堤中学校と連携し、「生きる力をはぐくむ連携のあり方」という共通のテーマのもと、合同の教科分科会を組織し小・中連携教育の研究及び実践を進め、その成果を区内に発信する。
- ② 小学生基礎学習教室を引き続き3年生・4年生の希望児童に実施するとともに、夏季休業中にサマースクール（補充教室）を全学年・特別支援学級において2週間実施し、国語科・算数科における児童の基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。
- ③ 土曜授業日は、通常授業を行い、毎週月曜日5校時の1単位時間を国語・算数それぞれの教科における基礎的・基本的な内容の習得の時間とする。その際、専科教員や副担任講師を活用し、個に応じた指導の充実を図る。
- ④ 幼保小連携を深めるために、幼稚園児・保育園児と小学校児童の交流を進める。また、幼稚園教員及び保育園保育士と小学校教員との定期的な交流や情報交換会や双方の職場体験を計画的に進める。さらに、「小1プロブレム」に対応するために、小学校1年生入学当初のスタートカリキュラムを作成して、試行する。
- ⑤ 毎週3回、朝8時25分からパワーアップタイムを実施し、音読、視写、漢字練習、マス計算、体力づくり等に取り組み、国語や算数の基礎的・基本的な学力及び体力の向上を図る。
- ⑥ 体力状況調査の結果の分析を基に体力向上プランを作成し、体育や体育的行事を充実させる。また、パワーアップタイムや土曜授業において体力づくりの時間をとり、児童の体力向上を図る。

## (3) 生活指導

- ① 基本的な生活習慣及び決まりを遵守する規範意識の確立を目指す。特に「あいさつ」や「返事」、「敬称を付けた呼名」「時間を守る」「話を聞く」などの指導をとおして自他を尊重し合う態度を育てる。
- ② 生活指導夕会や特別支援全体会での情報交換や教育相談及び適応指導を充実させる。また、いじめや不登校、非行や虐待等の問題行動に対して、特別支援コーディネーターが中心になりスクールカウンセラーや家庭・地域及び関係諸機関との連携を強化し、未然防止・早期発見・早期対応に努め、児童の健全育成を図る。
- ③ セーフティ教室や薬物乱用防止教室、生活安全マップ作りをとおして、危険回避の方法や安全な生活を送るための能力や態度を育てる。
- ④ 多様な事態を想定した避難訓練を実施し、災害時にとるべき行動や災害に備えた生活等についての指導を徹底する。

## (4) 進路指導

- ① 地域の商店街と連携した体験的な学習活動をとおして、未来を建設的に見つめる指導を行い、望ましい勤労観や職業観をはぐくむ。
- ② 中学校体験や「夢デザインシート」の活用、教員同士による授業交流や情報交換及び児童・生徒の交流をとおして、小中連携教育を推進し、自己の個性や特性に気付き、夢や目標に向けて努力する態度を育てる。